

# ミヤコザサ

*Sasa nipponica*

イネ科（大井次三郎ら）  
タケ科（牧野富太郎ら）

## 名前の由来

ミヤコは京都の比叡山で初めて発見されたことから名付けられた。ササの語源には、①ササダケ（細小竹）の略でササ（小竹）となり、一種のタケ（竹）の名として定着してササ（笹）となった、②葉が風に吹かれてふれあう音から、といった説がある。漢字名：都笹

## 形態的特徴

高さ30~100cm。茎（稈）は基部で1~2本の枝分かれし、上部で枝は出さない。節は丸くふくらむ。葉は細い楕円形で先がとがり、長さは15~25cm、幅は2~5cm、裏面に軟毛が生えている。質が薄く、明るい緑色だが秋から春にはふちが白く枯れて美しい。数十年に一度花茎を出し、まばらな円錐花序をつくる。

## 類似種と見分け方

他のササ類。茎の枝分かれの仕方に注目。地際で1~2本程度の枝分かれをする、あるいは枝分かれがみられず1本だけで生えているのがミヤコザサ。



ミヤコザサ。  
地面から離れたところでは枝分かれしない



ミヤコザサ



ミヤコザサ



ミヤコザサの花

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期(不明)												

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

海岸から丘陵地まで普通に生える。

**分布：**日本固有種であるため、国外には分布せず。

国内分布は、北海道と本州の太平洋側および四国、九州。北海道内分布は、主に道東と太平洋側地域の積雪の少ない地方で確認されている。

十勝地方では、海岸～丘陵地まで普通に見られる。林内では一面ササ群落となることも多い。



ミヤコザサ

## 生活史

開花時期：7月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

## 他生物との関わり

不明

## 興味深い話

■ササ類（タケ科ササ属）は日本で約50種、北海道でも約15種が確認されている。

■ササ類は枝分かれの仕方によって大きく3つに分けられる。1つ目は地際で1～2本程度の枝分かれをするミヤコザサの仲間。2つ目は茎の下部で数本の枝分かれをするクマイザサの仲間。3つ目は茎の上部で多数の枝分かれをするチシマザサとイブキザサの仲間。枝分かれの位置は冬期の積雪量に関係すると言われており、北海道では雪の少ない道東で主にミヤコザサの仲間、雪の多い日本海側で主に

チマキザサ、チシマザサの仲間が見られる。

■枝分かれの位置はすなわち冬芽の位置であり、冬芽は雪に覆われることによって保温され、春まで生き残ることができる。そのため、積雪量の少ない地域では地際で枝分かれをするミヤコザサタイプのササが生育に適している。

■十勝の平野部で、ミヤコザサタイプのササを見たら、そのほとんどがミヤコザサと思ってよい。



ミヤコザサ。花



ミヤコザサは冬も緑を保ち、枯れた縁の白色とのコントラストが美しい

## 配慮事項

ササは地下茎を伸ばして繁茂する。ササが繁茂した場所では他の植物が生育しにくくなるため、植物相が単純化する。

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989  
「増補改訂版 日本タケ科植物図鑑」 鈴木貞雄 聚海書林 1996  
「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001  
「新版 北海道の花(増補版)」 鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「図説 花と樹の大事典」 木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗 柏書房 1996

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ